

東台戰記

一名松廻落葉

乾

リ 5
1966
1



伊予
1966
1-2



緒言

一 余輩此書ヲ記スル四ノ慨歎スル處アルニ由
来ス東台ハ當府無比ノ勝地名刹夕リ一朝兵
變ニ罹ル是慨歎スヘキノ一十リ幕府廟墓ノ
地法王安居ノ山脱兵ノ鮮血ニ汚穢ス是慨歎
スヘキノ二十リ脱兵ノ結黨スルモトヨリ君
家ヲ維持スルノ良策ニアラズ是慨歎スヘキノ
三十リ脱兵ノ宦軍ニ抗スル暴舉判然齒牙
ニカクルニ及バズト雖死以事ニ従フハ實ニ
誣ベカラサルノ一端ニシテ是慨歎スヘキノ
四十リ此書ヲ記スル所以ハソレコ、ニ有リ



トス

一 此書ヲ記スルニ當テ確説ヲ索ルニ一時其隊
中ニ有ル者モ朝ニ過激ヲ鎮シタニ歎訴ノ議
ニアツカル實ニ事情ヲ記載スルニ暇ナシト
果シテ然ルベシ只隊長天野八郎ガ手記スル
處ノ斃休録一卷ト金杉村ナル根岸里ノ某カ
親ク見聞スル所ヲ録スルモノ一卷アルノ三
餘ハ各新聞紙類ヲ纂考シ且街談巷説ノ正キ
ヲ摘テ記スルトイヘルモトヨリ錯誤ナキ
能ハス請幸ニ答ルヲナカレ

一 隊中ノ氏姓ハ已上ノ二書并ニ傳聞スル所ニ

ヨリテ記ス就中事ニ臨ニテ徃々名姓ヲ改設
ルモノアリ今ソノ正キヲ知ルコト能ハス只
其隊中自稱スル處ヲ以テ記載ス

明治七年五月

扁額類縮寫

寛永

後水尾帝宸筆

筆宸皇法元靈

慶瑞

東台三世
明世代
公院宮
王辨法
真蹟

吉祥閣

前田夏繁
高島藍泉 著

松廻葉卷上

一名東台戦記

慶應戊辰ノ夏五月十五日東叡山ニ屯集スル處
ノ彰義隊以下ノ脱兵追伐ノ擧アリ今其景況ヲ
詳ニセントス同年春正月幕府東歸ノ後上下騷
擾議論雲ノ如シ此際深ク君家ノ安危存亡ヲ苦
慮焦心スルノ徒同志ヲ募テ淺艸本願寺ニ集會
シ君家朝敵タルノ臭名ヲ洗除シ家蹟相襲ノ公
許ヲ得ント專歎訴哀告ノ議ヲ興シ日夜コレニ
協力シテ各寢食ヲ安ニセス然ルニ此擧アルヲ
知リ檄ヲ傳スシテ來會スル者朝二十名ニシテ

晩ニ百人ヲ筭スルニ至ル遂ニ數日ノ後其人望
アル者ヲ推シテ首長トシ其隊ニ名ヅクルニ彰
義ノ字ヲ以テス彰義トハ蓋君家危急ニ當テ臣
子ノ義烈ヲ彰ハシントスルノ意ナラシカ此輩
ノ議紛紜決セザルニ時宦兵ノ東下ニ際シ此集
所本願寺ヲ以テ東久世殿ノ宿營ト定メラル是
ニ因テ衆コ、ニ會スルヲ能ハス去テ東台ニ入
リ山内ノ諸坊ヲ以テ必集ノ所ト定ム抑東叡山
ノ地ハ往昔津ノ藤堂氏ノ邸タリ津侯其采邑伊
賀ノ上野ニ食ム其地勢此彼相似タルヲ以テ上
野ト稱スト後幕府ノ廟墓ヲコ、ニ築キ寛永寺

ヲ創立スルニ當テ津侯ハ向柳原ノ地ニ移轉セ
リト云下寺ニテテラトヨリ通ト唱ルハリレヨリ數年ノ後白鶴
ノ徐歩スルアリ蹙ル處血ヲ墜スコト線ノ如シ
山僧ソノ奇異ヲノベテ以テ幕府ニ請ヒ始テ上
野ニ謀ス其事載テ古記ニアリ夫寛永寺圓頓院
ハ人皇百九代後水尾帝ノ馭宇寛永四年比叡山
延曆寺ニ擬シ江城镇護ノ夕ノ慈眼大師ヲシテ
此靈場ヲ草創セシメラル年号ヲ以テ寺号トス
師ノ草創スル所ノ比叡山ヲ以テ金甍玉檐成整ノ
時帝寛永寺ノ勅額ヲ下シ賜ヒ根本中堂瑠璃殿
ニハ靈元帝勅額ヲ下シ賜フシカ有リヨリ已

來輪王寺法親王連綿此地ヲ管領ニ賜テヨリ
莊嚴至テガル處十ク府下無比ノ梵刹タリ江城
ヲ去一里許廣坊アリ廣小路ト云ヒ寬永寺ノ南
門ヲ黒ト云フ自餘七門アリ新黒門ト云フ車阪
門ト云屏風阪門ト云新門ト云フ此四門ハ山ノ
東方下寺通ヨリ坂本ニ達スルノ門十リ穴ノ稻
荷門ト云清水門ト云谷中門ト云此三門ハ山ノ
西方ヨリ北根津谷中ニ達スルノ門十リ黒門ヨ
リ南一町許三橋ヲ架ヒ是忍池ノ下流十リ此
橋御橋ト云今三橋ニ改ム往昔三橋北數歩ニテ
時世ノ變實ニ歎スヘシ災ニ罹テ今只礎ヲ存ス
仁王門アリ旧時祝融ノ災ニ罹テ今只礎ヲ存ス

土俗廣小路ノ東面瀨川屋敷トヨブノ地ヲ仁王
門前ト云瀨川屋敷ハ今改テ五條町ト云瀨川ハ
五條天神ノスルノ三黒門ハ後ニ營ム處ニシテ
甚粗十リトイヘトモ吉祥閣魏々トシテ雲外ニ
高聳ス閣上文珠菩薩ヲ安シ諸佛其傍ニアリ扁
額ハ代明院宮公辦法王真翰ニシテ衆ソノ名蹟
ヲ稱ス薩陞ノ堂土俗清水堂ト云東面ニ孤立シ
テ佛法東漸ノ真趣ヲ表シ盧沙那佛堂蹟ヲ擬シ
大小ニ軀西面ニ依然トシテ西方淨土ノ莊嚴ヲ
象レリ山王祠稻荷社比叡山ハ祭神大山咋神十リ
宮地南門ノ東高所ニアリ稻荷ハ宇邊意ヲ東西
祀ル南門ノ西不忍池ニ通スルノ道ニアリ東西
相對ニ二所ノ鐘樓南北相接又吉祥閣ノ北一町

許左右ニ常行堂法華堂アリ中央ニ朱橋ヲ架シ
行人ヲシテ橋下ヲ通セシム土俗ト是ヲ二僧坊三
十六東ヲ四軒寺ト云ヒ下寺ト云併セテ十八坊
西ヲ谷中道ト云ヒ錦小路ト云ヒ奥寺ト云併セ
テ十八坊アリ奥寺ノ地ヲ一ニ彫谷ト云土俗謬
テ也其他一切經輪藏五輪塔アリ十刀ニツク根
本中堂瑠璃殿ハ藥師佛ヲ安ニ廻廊南門壯觀云
フヘカラス背面數歩ノ地ハ則親王ノ法殿トス
土俗御本満山櫻花ノ春ハ芳野ニ彷彿シ哈命往
坊ト云フ花遠近楓葉ノ秋ハ龍田ヲ壓倒ス層松
措芳野ト云フ風泰平ノ樂ヲ奏シ老杉ハ鬱々ト
ハ森々トシテ

シテ露土壤ヲ破ラズ地位平坦ニシテ東面總ニ
高ク北ハ根岸三河崑ノ田畝ニ接シ西ハ根津谷
中ニ属シテ不忍池其間ニアリ元來兵ヲ弄シ武
ヲ逞フスルノ地理ニアラナルコト知ベシ今年
彰義隊コ、ニ移屯セシヨリ陸續隊名ヲ呼テ其
下ニ属スル者凡十有五隊

- 遊擊隊 幕講武所ヲ置テ擊斃鎗斫
- 步兵隊 一聯隊 是其隊也
- 砲兵隊 猶興隊 神奈川開港場ニ置所
- 純忠隊 卅隊長竹中 歩兵隊也
- 旭隊 八十三郎 貫義隊 臥龍隊 金八郎 官

万字隊關宿

神木隊高田

馬勝隊高崎

白虎隊藩

其他浮浪ノ徒一時糊口ノ為ニ加レル者モ亦少

三トセスル時俗此諸隊ヲ概ニテ彰義隊ト呼ナセ

十ヲ以テ終諸隊ヲ總括シ其本源ヲ起ス

松石隊明石

浩氣隊若州

水心隊結城

清氣隊

彰義隊長池田大隅守浪澤誠一郎中條金之助小田井庫太三人ハ

モト隊長タリニカ事故

准隊長

天野八郎
萱沼三五郎

頭取

春日左衛門

川村敬三

吉田定太郎

伴門五郎

織田主膳

本田敏三郎

小林清五郎

大塚雀之進

加藤陽三郎

酒井寧輔

近藤武雄

准頭取

兵隊伍長

新井録太郎
松山作左衛門
土肥八十三郎
松本衍吉
杉原鼎
石川善一郎
大谷内龍五郎
加藤光造
佐久間未七郎
菅沼房次郎
鳥飼常三郎

會計長

浅川文三郎
本下七郎
山崎雄五郎
高橋真吉
比留間良八
安藤勘造
古谷万太郎
村越三蔵
今井磐
西村與八郎
田中清三郎

記録長

百井求之助
飯田豊之助
秋元虎之助
九毛靱負
加藤太五郎
金井鎮次郎
齊藤金左衛門
小野安太郎
小川喜代之助
窪田^俊俊助
阿部杖策

器械掛

天王寺 誥 隊 谷 中 分 營 也

松寄平三郎

神木隊取締
万字隊取締
覺王院 誥^{内山}

小川揚太
高橋龜吉
花俣鉄吉
近田六郎太夫
百瀬雄三郎
高山鍵太郎

皆旗下脱走ノ徒 誥代恩顧ノ士志ヲ傾ケテ朝夕
討論スルモ唯幕府ノ安危存亡ニ管セザル者ナ
シ然リト雖君主謹慎恭順ノ際私意ニ明黨ヲ誥^結

ヒ隱微ニ威武ヲ逞フスルハ實ニ朝旨ヲ蔑如ス
ルカ如シト廟堂ノ議モ亦是ヲ度外ニ置ク屢大
惣督府ノ命ヲ以て退居スヘキノ旨ヲ説諭セラル
トイヘ凡一タビハ君家ノ興廢存亡ヲ見ザルニ
於テハ其命ニ應スベカラザルヲ以テシニ夕ビ
ハ祖宗ノ廟墓ヲ離ル、ニ忍ヒホルヲ以テシ三
夕ビハ歷代ノ書籍寶器ヲ大惣督府ノ命ニ應シ
ヲ幕命ニ因テ護スル保護スルヲ名トシ開城ノ時百方相拒
ニテ固守動ス諸隊ノ首長ハ過激ヲ糾弾シ暴動
ヲ防クト雖衆口嗷々撫劔磨銃ノ徒多ク既ニ吉
田要之助秋元源七郎匠田友三郎伊藤熊八関規

矩寺等谷中三寄町北天王寺ノニ於テ官兵巡
査ノ道ヲ遮リ口論ノ未闕争ヲ發シ薩州ノ兵士
有吉庄之丞湯地治右衛門有馬早八郎ヲ殺傷シ
或ハ奥羽ニ運輸スル所ノ彈藥ヲ掠奪シ或ハ北
地ニ赴ノ脚大ヲ暗殺スカクノ如キ事屢アリト
雖朝廷猶寛大ノ宥恕ヲ垂レテ嚴ニ其罪ヲ問ハ
レハ激徒ハ却テ遺憾トスルモノアリ時山花ノ
盛ニ會ス一士人花下ニ逍遙シテ漫ニ朗誦スル
モノアリ連年山花ノ盛衰君集コニ勝遊ス
免ナス當春諸隊屯成ト嵐吹ケ戦ノニハ櫻
一人又其句ヲ襲ク都ノ錦夕ツノヤヨヒニ各官小

段錦ヲ着以標トス都ノ錦トハソレヲオシテ云ナリ辰ニ裁断ノ義ヲカネタリ一篇佳作ニアラスト雖過激徒ノ意中ヲ察スベシ四月下旬遂ニ朝議其抗命ノ赦スヘカラザルニ決シ追伐ノ色表ニアラハル此際一山ノ周圍外柵ヲ設施スヘキノ論ヲ起スモ有テ竊ニ事ヲ近傍ノ市人ニ托ス市人唯諾去テ日アラヌ募ラザルニ金幣ヲ携ヘ促オハルニ杖ヲ輸シテ外柵頃ニナル是ヲ以テ益暴動反逆ノ論定ル惣督府下モ亦此巢穴ヲ攘スニバアルベカラズト軍務ノ長大村益次郎長州藩計謀ヲ陰幕ノ内ニメグラシ諸藩兵ノ向フトコロヲ定メ五月十四日翌

日山兵追討セララルヘキノ命令ヲ出セル其文ニ云

旗下末々脱走之輩上野山内其外所々屯集一官兵を暗殺無辜之民財を掠奪一益暴虐を逞一官兵子抗衡を實子大罪不可赦之因賊也最早
朝廷寛仁之道も絶果断然誅伐被仰出候付而者勇闘激戦奮て国賊を鏖殺一億兆蒼生之塗炭を救ひ速小平定之功を奏一可奉安 宸襟
旨 御沙汰候事

五月

兼而御軍令は色被仰出候通猥に民家を放火
一家財を掠り等亂妨狼藉之間敷義無之様可
相心得旨尚改而被仰出候事

五月十四日

大惣督

参謀

山兵毛此結構アルヲ知テ所々ニ巨礮ヲ分配シ
諸隊ノ向フ處ヲ定メ東台近傍ノ市人老少婦女
退居難キ避ベキヲ布達ス此年ヤ春ヨリ盛夏ニ
至ルマテ霖雨濛々連月日光ヲ見ズ道路泥濘進
退不易水満溢舟車ノ辨利ヲ失ヘリ調度ヲ負擔

スルノ夫ハ東西ニ轉伏シ衣櫃ヲ荷フノ婦南北
ニ倒屍ス老人ハ失火ヲ憂テ空ク倉庫ニ注意シ
年少ハ母ヲ失テソノ口ニ巷頭ニ號泣ス馳驅奔
走雜沓云フヘカラス十五日昧爽宮兵ノ諸隊分
列相進ム南黒門口ヨリ湯島天神臺ニ向フモノ
薩州肥後因州ノ兵トス東山下通車阪門屏風坂
門坂本ヨリ進ムモノ薩州長州彦根備前因州阿
州伊州トス西本郷ヨリ富山郎前田綱松郎地水
府郎目地ト云北ニヨル肥前筑後備前伊州佐
土原尾州隊礮トス自餘一橋御門ヨリ水道橋ニ
備フルモノ阿州トス水戸郎小石ニ備フルモノ

尾州ト又森川宿_{本郷駒}在追合_{駒込}ニ備ル者
備前ト又大川橋淺草邊ニ備フル者紀州ト又昌
平阪聖堂_{學校}部_{州師範}筋違邊ニ備ルモノ新發
田伊州ト又千住大橋ニ備フルモノ因州ト又板
橋驛ニ備フルモノ若州ト又川口驛戸田川原ニ
備ル者大久保與市肥後ト又沼田古河忍川越ノ
驛ニ備ル者肥前肥後藝州筑前ト又此諸隊ハ山
兵ノ潰亂ニテ其北ルヲ一舉ニ網羅セニトスル
ノ結構タリ山兵ノ諸隊始三千餘人アリ事ノ不
意ニ出ルヲ以偶歸家ニテ在營セザル者當朝出
發シ山兵ニ列セニトシテ道官兵ニ廿、ヘラレ

テ空ク從事セザルアリ一時糊口ノ為ニ身ヲ隊
中ニオクノ徒ハ前夜遁逃スルモ有ヘシ頃日三
十有余ノ兵今朝見兵千人ニ過スト、_一氏隊長以
下義ヲ思フノ徒更ニコノ輩ニ関涉セズ諸隊ヲ
整頓シ乍候ヲニツカラシテ春日天野小林等ヒ
トシク東台ヲ出微行シテ山下通り_山又_陳枋_金錢
杉一通ヨリ阪本ヲ歷_棟台_達北_千根岸里ニ至ル
比ホヒ南方忽砲響ヲ聞驚テ馬ニ鞭ウ千天王寺
ヨリ池ノ端マテ采ルニ南門ニ戦争始リ相挑ノ
景況ナレハ直ニ山内ニ馳入諸隊ニ下知ヲツタ
フ是ヨリナキ南門ニハ薩州肥後因州ノ兵廣小

路ヨリ進撃シ大小ノ彈丸ヲ飛シテ相迫ル山兵
ハ酒井宰輔指令シ万字隊コレニ協力應援シテ
防禦粉骨ス西穴稻荷門ニハ浩氣隊神木隊相備
テ備前佐土原筑後尾州ノ兵ノ富山水府ノ二郎
ヨリ發砲スルヲ嚮ヘテ蒲生八郎浩氣隊長マ、
ニ奮戦ス南門ハ一山ノ咽喉タリカタク守禦セ
ズニハ有ルヘカラスト八聯隊ヲ以テ應援セシ
ム此隊ノ長木下七郎副長寺澤瀧之助トモニ擊
劔ニ長セルヲ以テ酒井宰輔ニ協力シ歩兵ニ令
シテ小銃ヲ連發セシメ進軍ヲ嚮テ屠殺スルコ
トイクハクナルヲ知ラズ官兵モ此兵勢ニ挫レ

テ敢テ進ニ近ヅク能ハス時ニ因州ノ兵力ネテ
湯島天神臺ニアルモノ天満宮ノ別當喜見院ニ
山兵埋伏スルト告ルモノ有ルニヨリ夕、午ニ
寺院ヲ放火シス、ニテ仲街湯島ヨリ東廣小路
ヨリ池邊ニ出横ヨリ山内ヲ攻撃セントスレモ
地利ノヨカラオルヲ以テ猶豫進マズ軍ヲカヘ
ニテ廣小路十ル薩州已下ノ兵ト、モニ南門ヲ
破ラントス山王臺ニハ巨礮ヲ置テ南門進撃ノ
敵ヲ攘ハント破裂彈ヲ以テ激發スコレガ為ニ
廣小路ノ南方ニ處火ヲ發シ連々延焼ス山王臺
東面高聳ノ山下官兵ノ山下ヨリ迫ルモノ數
廣小路眼下ニアリ

隊ノ中伊州、一隊間道ヨリ進テ下谷町竹所等
地ヨリ山竊^竊山下ノ割烹家^{伊勢}屋^上勢^云万^上云^上巨^大村
下ニ進ム竊^竊山下ノ割烹家^{伊勢}屋^上勢^云万^上云^上巨^大村
樓有官兵コ^コ埋伏ス樓上ニ屯集シ其垂簾
ノ中ヨリ小銃ヲ連發シテ山王臺ノ兵ヲ狙撃ス
山上コレガタノニ殪ル、モノ多シ後ニ聞伊州
ノ隊中鷹取春朔ナルモノ、計策ナリト山兵ハ
山下ノ官兵埋伏ヲ認得ストイハ^匠大方コノ割
烹家ノ邊ニアルヲ察シ山下ヲ放火シテ其帶據
ヲ奪ハント破裂彈ヲ數發ス山下ツヒニ延焼シ
テ又數坊ニ及フ本日モ猶微雨至リ烟雲閑天不
辨咫尺號呼山ヲ動ニ砲響石ヲ飛ス山北谷中門

ハ本隊天王寺ヲ屯成ノ地トシ小川揚太高橋龜
吉花侯鉄吉ヲ隊長トシテ属スルニ步兵隊万字
隊旭隊松石隊アリ官^兵ハ本郷ヨリ向フ所ノ長州
已下數隊ナリ山北根津権現ノ社中ニアル所ノ
山兵ノ合隊ヲ擊却ケテ其勢破竹ノ如ク直ニ團
子阪^駒木^ニ相^ア接^リス谷中トヨリ天王寺ニ進撃シ
山北ヲ捲テ一舉ニ攻メ降サントス山兵ハ天王
寺ヲ發シ步兵隊ヲ先鋒トシ彰義隊ノ壯士競テ
奮戦ス地勢高低一ナラス狹隘ノ坂満水ノ道進
退意ノマ、ナラスニテ地利ニクヲキノ官兵擊
ル、モノ數ヲシラス肥前ノ隊ハ兵半ヲ分割シ

南門ニ向ハシノ小銃隊ヲ牽テ大村佐土原ノ兵
ト共ニ長兵ヲ救テ相挑ム兵威奮然必死ヲ究ム
ト雖トモスレバ山兵ニ切り靡ケラレテ足
ヲ正ムルヲ能ハス遂ニ敗シテ惣軍潰亂ス山兵
ハ諸隊ニ指令シ北ルヲ追テ根津敷下マテ
根津権現トノ間ヲ云ソノ地利ヤ西
面高ク東面崖ヲ十ニ樹木繁茂セリ迫ル時官兵
ノ伏茂林竹篁ノ間ニ起テ其横面ヨリ連發ス彈
丸ノ雨防クニ夕ヘス鯨波雷ノ如ク兵列ヲ整ル
ニ暇マアラスシテ山兵一時ニ敗軍ニ一隊長コ
、ニ討死セシニヨリ諸隊潰亂死傷莫スヘカラ
ス元來官兵ノコ、ニ伏ヲ設シヤ進撃ノ隊ヲシ

テイツハリ敗シテ死地ニ欺キ入レコレ全勝ヲ
取トモ云ヒ肥前ノ兵半隊ヲ分テ南門ニ向ハシ
ムルノ時密策ヲ以テマ、ニ伏ヲ置リトモ云今
其確説ヲ得ストイヘ凡前ニハ山兵利ヲコ、ニ
得官兵替テ又山兵ヲ破ル得失地ヲ同フシテ兩
軍運ヲ異ニスルハ抑歎スベシトセニカ欣ブベ
シトセニカ此進退數次ノ炮火ニ羅テ近坊多ク
焼亡ス天王寺モコノ兵燹ニ属セリ今夕、五重
ノ塔ノ三茂樹ノ中ニ有テ存在セリ同時水富ニ
邸ニ屯スル所ノ尾筑以下ノ兵ハ池ヲ隔テ山ノ
横面ヨリ臼砲ヲ發シ兵士ハ小舟ニ乘シテ辨財

天堂ノ中爲ニ渡リ直ニ穴稻荷門ヲ攻撃ス一ニ
仲所ヨリ廣小路ヲ歴テコ、ニ進ムトモ云イツ
レカ是ナラニ穴稻荷ハ吉祥閣南數歩ニシテ祠
背狐穴アルニヨリテ名ツク此門ヲ防禦スルハ
神木隊神原藩浩氣隊若州藩ニシテ蒲生三郎近田六
郎太夫力ヲ合セテ挑ニ戦ヒ池西ノ敵ヲ數百歩
ノ外ニ狙撃シ船ニ乗シテ進ムノ隊ト相戦フ
數十合時神木隊中中村徳三郎十ルモノアリ年
終ニ十七勇奮激烈堅キヲ挫テ敵數人ヲ斫殺シ
首級ニツノ髪ヲ束ネテ背ニカケ猶進軍ヲ攘ハ
ントス此時連發ノ彈丸全身五ヶ所ニ透徹シ斃

ルレトモ屈セス退テ山内ニ入り閣下ニ至テ全
ク死蒲生三郎モ亦コノ亂彈ニウタレテ死スト
云此二士ノ勇肝タレカ惜マザルベケンヤ蓋シ
吉祥閣ノ兵燹ニカ、レルモコノ水富二郎ヨリ
發スル所ノ彈丸ニヨルト嗚呼此日イカナル日
ソヤ慈眼大師開基ヨリ實ニ二百四十一年ナリ

